

私がロミジュリを嫌いなワケ

【登場人物】

篠田眞子  
IT企業営業部

橘 章夫

IT企業開発部

【場所】

とある居酒屋

居酒屋に入ってくるスーツ姿の眞子と章夫。  
少し重苦しい雰囲気。

眞子 ビールでいいんですたっけ？  
章夫 うん。

眞子 (店員に) すいません、生一つとウーロン茶一つ。  
章夫 いや、やっぱりウーロン茶で。

眞子 (店員に) ウーロン茶二つ。  
章夫 いや、ごめん、やっぱりビールで。

眞子 (店員に) 両方ください。(章夫に) どうしたんです？  
章夫 ……飲むべきか、飲まざるべきか。  
眞子 迷ってるんですか？

章夫 一応、仕事の話で来たんだし。  
眞子 ……。

章夫 篠田さんはいいの？ お酒好きって聞いてるけど。  
眞子 私、運転あるんで。

章夫 あ、そっか。

店内を見回す二人。

眞子 (同時に) 奥の席行きますか。

章夫 (同時に) ここでいいかな？

眞子 あ、ここ。ここにしましょう。

章夫 あ、ごめん。いいの？

眞子 はい、いいです。

神妙な面持ちで席に座る二人。

章夫 何か、緊張してる？

眞子 橘さんこそ。

章夫 考えたら、二人で飲むって初めてだなんて。

眞子 そうですね……。

章夫 嫌かもしれないけど、ちゃんと話はしないと。

眞子 嫌なのはそこじゃなくて……。

章夫 そこじゃなくて？

眞子 ……何でもないです。(メニューを渡し) 何か頼みます？

章夫 ここ、よく来るんだっけ？

眞子 はい、まあ。

章夫 オススメってあるかな？

眞子 あ、それなら、四川麻婆豆腐とかスパイシーチキンとか……。

章夫 あ、俺辛いのだメなんだ。

眞子 え。

章夫 え。

眞子 ……プ、プリン、とか。

章夫 あ、篠田さん、辛いのが好きなんだ。いいよ、頼んで。

眞子 いや別に……。

章夫 ちよつと辛いくらいなら大丈夫だし。

眞子 ……。

章夫 そんな辛いのか？

眞子 プリン……。

章夫 いや、プリンはいいかな。

眞子 ……。

章夫 と、とりあえず、やることやっちゃおうか。ね。

眞子 はい……。

バッグから書類を取り出す章夫。

章夫 じゃあ、順を追って話をする……。

眞子 はい。

章夫 今日、営業先に俺を連れてったのは何で？

眞子 お客様が仕様を変更したいと言ってたので、開発部の人にも

話を聞いてもらった方がいいかと。

章夫 うん、それは凄くありがたい、こつちとしても。

眞子 はい。

章夫 でもさ、お客さん、もう仕様変更できるって信じてたよね？

眞子 ……。

章夫 昨日、篠田さんが言ったんだって？ 変更できますって。

眞子 はい。

章夫 開発の人間連れてくなら、その時じゃないかな。

眞子 急なお話だったので。

章夫 連れてく暇なかった？

眞子 はい。

章夫 だったら、できるって言わないでほしかったな。

眞子 ……。

章夫 しかも納期は変わらないんでしょ？

眞子 お客様の強い要望だったので。

章夫 今のスケジュールでもかなりギリギリなの、聞いてるよね。

眞子 ……。

章夫 変更は何日かかるか篠田さんはわからないのに、納期を変えずにできませんって言うのはおかしくない？

眞子 お客様は簡単な変更って言ってましたよ。

章夫 簡単かどうか判断するのは俺たちだよ。

眞子 ……。

章夫 先週もさ、営業の堀田君とウチの佐藤で殴り合いのケンカあったでしょ。あれも同じような理由だよ。

眞子 ……。

章夫 ……。

眞子 ……。

章夫 こっちとしては、やっぱり無茶なことを丸投げされてるよう

に思っちゃうんだよ、どうしても。だから営業部は無責任だ

って言われるんだよ。

眞子 ……。

章夫 ……ごめん、言い過ぎた。

眞子 ……。

章夫 ……の、飲み物、来ないね。

眞子 ……。

章夫 篠田さん、あの……。

眞子 逆に聞きますけど、できないなんてお客様に言えると思いま

すか？

章夫 できないとは言わなくても、せめてわからないとか……。

眞子 同じですよ。それじゃあ営業にならないじゃないですか。

章夫 でもわからないのは事実でしよう？

眞子 じゃあ私たちは、毎日お客様と付き合って、営業の技術も磨

きながら、開発の勉強もしろと？ ずいぶん一方的じゃない

ですか？

章夫 ……。

眞子 だいたい、知識があったって、お客様に向かってできないな

んて言えませんよ。

章夫 そりゃハッキリ言うのもどうかと思うけど。

眞子 前、開発の佐藤さん、言っていましたよ。お客様に。

章夫 ……。

眞子 私がどれだけフオロー大変だったかわかりますか？

章夫 いや、あの人は確かに物言いが、ね。

眞子 私たちは将来的な会社の利益を考えて仕事を受けて来てるんです。開発の人は目先のことに囚われすぎです。

章夫 目先のことだって大事だよ。

眞子 今の時代、IT企業はいくらでもあるんですよ。その中で生き残るにはどうすればいいか、日々考えてますか？

章夫 ……。

眞子 目の前の不満ばかり愚痴ってる開発部こそ、営業から無責任って言われてますよ。

章夫 ……。

鼻をすすり、目に涙を浮かべる眞子。

眞子 ……すみません、言い過ぎました。

章夫 ！

眞子 飲み物、来ないですね。

章夫 いや、どうでもいいよそんなの。ど、どうしたの？

眞子 (顔を背け) 何でもないです。

章夫 この流れで泣くなら俺じゃない？

眞子 泣いてないです。

章夫 だって今、俺が責められて……。

眞子 責めてないです！

章夫 え？

眞子 言い過ぎたって、言ってるじゃないですか……。

間。

眞子 開発の人って、やっぱり営業のこと無責任って言ってるんですか？

章夫 えーと……うん。

眞子 ……営業もです。

章夫 そっか……。

眞子 橘さんは？

章夫 俺？

眞子 橘さんは、営業、無責任だと思ってますか？

章夫 俺は……どうなんだろ。うーん、多分、少し。

眞子 そうですか……。

章夫 篠田さんは？

眞子 ……少し。

章夫 そっか……。

眞子 すみません。仕様変更、事後報告になっちゃって。

章夫 あ、それなんだけどさ、何で変更受けたの？

眞子 お客様のご要望だったので……。

章夫 じゃなくてさ、先週も営業と開発で大ゲンカになったじゃない。篠田さんが同じことするとは思えなくて。

眞子 ……。

章夫 何か理由があつたんじゃないかなって。

眞子 ……悔しかったんだと、思います。

章夫 悔しい？

眞子 ウチの商品って、橘さんたちが作ってる訳じゃないですか。

競争に負けたら悔しいんです。

章夫 どういうこと？

眞子 私、プログラミングはよくわかりませんが、お客様からの橘さんの評判、すごく良いんです。

章夫 あ、え、そうなの？

眞子 橘さんはすごく良いものを作ってくれてるんだから、私がそれを売り込まなきゃ……。

目に涙を浮かべる眞子。

眞子 私だって、本当は開発が欲しいって言う納期や予算で仕事受けたいんです。でも、それで他に仕事取られたら意味ないじゃないですか。

章夫 うん……。

眞子 それで結局橘さんたちに無理させてるんです。わかってるんです。でも私は、仕事取ってくることしかできないんです……。

章夫 ……。

眞子 飲み物、来ないですね。

章夫 そうだね……。

眞子 ……。

章夫 篠田さんがさ、そうやって俺たちのことも真剣に考えてくれるのは知ってたよ。

眞子 ……そうなんですか？

章夫 だって、開発部に進捗の連絡とかちやんとくれるし、顔も出しにきてくれるし。他の営業さん、そんなことしてくれないじゃない。

眞子 ……まあ。

章夫 でも、今話してるの聞いていると、辛そうだね。

眞子 ……。

章夫 篠田さんの方こそ無理してるんじゃないかなって、そんな気がする……。

眞子 ……やっぱり、優しいですね。

章夫 俺？

眞子 (頷き) ……まあ、それが辛いんですけど。

章夫 え……。

眞子 ……。

章夫 ……。

自分の席に置かれた割り箸を手取る眞子。

眞子 割り箸の綺麗な割り方、知ってます？

章夫 割り方？

眞子 昔見た漫画に書いてあったんです。

章夫 先端を持って、ゆっくり横に引っ張るんでしょ？

眞子 (自分の箸の先端を持って) もし綺麗に割れたら、私ビール頼もうかと思ってます。

章夫 え、そしたら……。

眞子 会社に車持ってけないですね。

章夫 ……。

眞子 そしたら、仕事の話どころじゃないですよね。

章夫 ……。

眞子 (箸を構え) じゃあ、いきますね。

章夫 いや、ちよっと待って。

眞子 ……。

章夫 それでいいの、本当に？